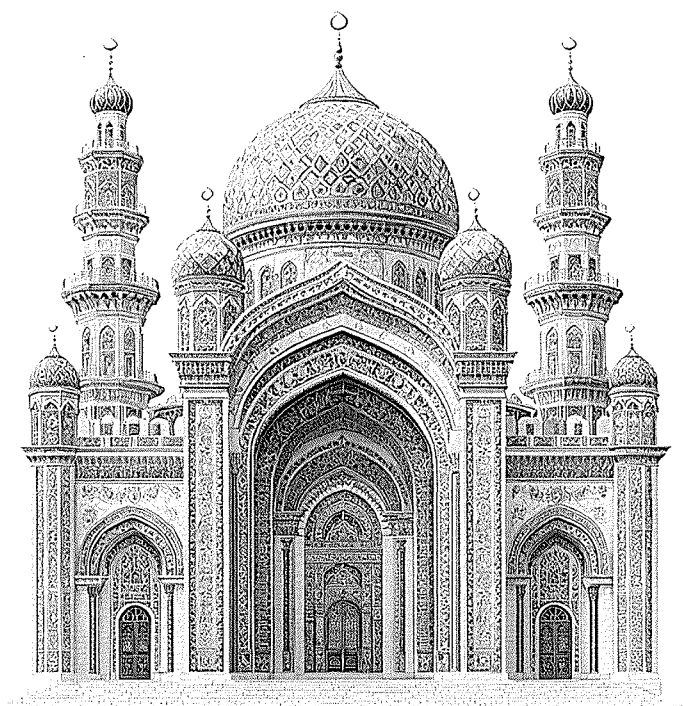


私のイスラーム観

徳増 公明



第四章

イスラームに関する一般的質問

1－イスラームはどんな宗教か？

回答；すべてのものを創造した御方、アッラーの存在を信じ、アッラーの恵みで生かされていることに対してアッラーに感謝し、アッラーの言葉であるクルアーンを人生の規範とする宗教。

またユダヤ教、キリスト教と同じ唯一神を崇拝し、死後永遠の来世がある。現世での行為が死後直後の審判で、楽園へ行くか、地獄へ行くか判決されるので、信者はクルアーンや預言者ムハンマドの言行にある規範に沿った生き方をしようと努める。信者が義務行為として実行すべき、主な教義として、次の6信5行がある。

6信；アッラー、諸天使、諸啓典、諸使徒、最期の審判の日、定命

5行；信仰の告白、礼拝、喜捨、断食、巡礼

クルアーン（（万有の主、アッラーこそ凡ての称賛あれ。慈悲あまねく慈愛深き御方。最後の裁きの日の主宰者に。わたくしたちはあなたにのみ崇め仕え、あなたにのみ御助けを請い願う。わたしたちを正しい道に導きたまえ））（1章2～6節）。

（（信仰して善い行いに励む者には、われは川が下を流れる楽園に入らせ、永遠にその中に住ませよう））（4章57節）。

2－アッラーはどんな神か？

回答；クルアーン112章に次のように述べられている。

（（かれはアッラー、唯一なる御方であられる。アッラーは自存され、御産みなさらないし、御生れになられたのではない。かれに比べ得る、何ものもない））。

この章ではアッラーについて、次のように集約されて述べられている。

アッラーはわれわれの一般的概念を越えた崇高な存在である。

アッラーは唯一なる御方で、われわれが仕えるべき神である。宇宙のあらゆるものはアッラーの創造物にすぎず、かれと対比できない。

アッラーの存在は永遠であり、始めもなく終りもない絶対者である。他のすべてのものは、束の間の存在にすぎない。またアッラーには何も欠けているものはない。

アッラーが子をもち、父親になることを考えてはならない。

われわれがアッラーの属性および偉力に比べ得る何ものもない。

アッラーの本質については人間の限られた知性によって超越者、絶対者の本体を知ることにはできないが、アッラーの属性はアッラー自らが語っているので、理解することは可能である。

クルアーン（（最も美しい凡ての御名はアッラーに属する。それでこれらの美名で、かれを呼びなさい））（7章180節）。

そのアッラーの多面性は、アッラーの美しき御名としてクルアーンやハディースに登場する。アッラーの美称は無限であるが、その中でも良く知られているのがアッラーを始めとした99の美称である。

例えば、アッラー、慈愛あまねき者、慈悲深き者、王者、平安者、保護者、偉大者、全知者、全聴者、全視者、正義者、無限大者、至高者、寛大者、監視者、復活者、真理者、永存者、自存者、唯一者、全能者、超越者など。

アッラーは地上の人間に特別な恵みを与えた。他の動物にない言葉や、知恵、そして美しい自然や様々な飲食物、現世での生き方の規範も示した聖典クルアーン、を与えた。そして、人間がこのアッラーの恵みに対して、どのようにアッラーに感謝し、アッラーの言葉であるクルアーンに、如何に忠実に従うかという、試練を与えた。アッラーは最期の審判で、人間一

人ひとりの現世での試練を判定され、永遠の来世への道を定められ、樂園行きか、地獄行きかを示される、恐ろしい御方でもある。

同時にクルアーンで述べられているようにアッラーは、慈悲あまねく慈愛深き御方、最後の審きの日の主宰者であられる。

3－クルアーンとはどんな聖典か？

回答；西暦610年から23年間に亘って、サウディアラビアのマッカに生まれた預言者ムハンマドに、天使を通して下されたアッラーの言葉。預言者ムハンマドの死後、カリフ達によって編纂され、一冊の本として出来上がった聖典。文体は韻を踏む散文や散文詩で、内容的にはアッラーへの信仰に関するもの、社会生活、法規範、過去の預言者たち、物語、戦争など広範囲の内容を包含している。

アッラーは人々が使徒の言うことを信じるように、使徒たちに様々な奇蹟を与えた。使徒ムハンマドに与えた最大の奇蹟は、聖典クルアーンであった。その内容、アラビア語の素晴らしさは人間が作ったものとは思われなく、当時の人々、特に詩人たちを驚かしたといわれている。また最近のコンピューターの分析で、聖典クルアーンの中にある77,474語の単語の中に、反対語や関連語の数が同数あることが分かった。例えば、現世と来世は115個、男と女は24個、生命と死は145個ずつある。文盲だった使徒ムハンマドや当時の人々が作ったものとは思えない。

クルアーン（（それこそは、疑いの余地のない啓典である。その中には、主を畏れる者たちへの導きがある））（2章2節）。

（（もしあなたがたが、わがしもべ（ムハンマド）に下した啓示を疑うならば、それに類する一章（スーラ）でも作ってみなさい））（2章23節）。

4－預言者ムハンマドとはどんな人物か？

回答；預言者ムハンマドは西暦570年頃マッカの有力部族クライシュ族のハーシム家の一員として生まれた。父を生まれる前に亡くし、母は6歳のころ亡くし、孤児として、祖父アブドルムッターリブや叔父アブターリブに育てられた。25歳の時に40歳のハディージャと結婚、610年40歳の時に突然啓示を受ける。その後、マッカのクライシュ族から迫害され、622年、マディーナへ移住した。そこでイスラーム共同体を作り、布教活動を進めるとともに、政治家として手腕を発揮し、イスラーム共同体（ウンマ）を拡大させた。632年、多数の信者を連れて、マッカに巡礼に行き、同年マディーナにて、死亡した。イスラームを入びとへ導くためにアッラーから遣わされた預言者ムハンマドの言行は人間の生き方の規範となった。彼の言行録はハディースとして、彼の死後、学者たちによって纏められた。ハディースは、ムスリムにとって、クルアーンに次ぐ規範として、今日も欠かせないものになっている。

クルアーン（（ムハンマドはアッラーの使徒である））（48章29節の最初の文章）。

5－ラマダーン月にムスリムがする断食とは？

回答；断食はムスリムの義務行為である。イスラームの断食はアラビア語でサウムと呼び、飲食、性行為を断ち、言動も慎まなければならない。日本語では斎戒が相応しい。ヘジュラ歴9月をラマダーン月と呼ぶ。この月に聖典クルアーンが下ったと言われるので、この月は特にクルアーンを良く読みイスラームの知識を深めることを奨励している。また断食をすることにより、食べ物の大切さを知り、飢えに苦しむ貧者に同情し、彼らを

助ける気持ちを起こさせる。

この断食は朝の黎明時間（日の出前約一時間半前）から日没時間まで。太陽が沈んでから、次の日の黎明時間前まで飲食をすることができる。日没時の食事をイフタルと呼び、富んだ人は貧者をはじめとして、友人、知人、関係者にイフタルを振る舞い、その日の断食が無事にできたことを喜び合い、アッラーに感謝する。イスラーム諸国ではこの一カ月間は御馳走を作り、呼ばれたり、呼んだりするので食料消費が多くなっている。なお、病人、旅人、妊婦、授乳中や生理中の女性は断食を許されるが、後日、その日数をしなければならない。

クルアーン（クルアーン月こそは、人類の導きとして、また導きと（正邪の）識別の明証としてクルアーンが下された月である。それであなたがたの中、この月（家に）いる者は、この月中、斎戒しなければならない。病気にかかっている者、また旅路にある者は、後の日に、同じ日数を（斎戒する））（2章185節）。

6－ムスリムが行うマッカ巡礼とは？

回答；この巡礼をハッジと呼び、ムスリムの義務行為の一つで、一生の間に一回実行しなければならない。ただし、健康であり、経済的に負担にならないことを条件としている。ハッジはイスラーム歴12月8日～12日まで行われ、聖マスジド ハラーム、アラファート、ムズタリファ、ミナーで一定の儀式を行う。世界中のムスリムがハッジをすることを願望しており、限られた時期に限られた儀式を行うことは人数的制約が必要で、サウジ政府が毎年国別に人数を定めて対応している。近年の巡礼者数は約300万人に上る。巡礼中の衣服は、男性はイハラームと呼ばれる二枚の

白布のみ、女性に特別な規定はないが、手首、足首までの衣服をまとわなければならない。これらの儀式は預言者ムハンマドが632年に行った離別の巡礼を範例としている。

一方、ハッジの時期ではない巡礼を、小巡礼（オムラ）といい、カアバ聖殿を7回まわるタワーフ行事とマルワー丘とサファーの丘を7回行き来するサアイの儀式を行う。オムラにも、世界中からムスリムやって来るので、マッカの聖マアスジドは、年中途絶えることがなく、多くの巡礼者でにぎわっている。

クルアーン（（この家への巡礼は、そこに赴ける人々に課せられたアッラーへの義務である））（3章97節）。

7－イスラームの喜捨とは？

回答；大きく分けてザカートと呼ばれる義務の喜捨とサダカと呼ばれる任意の喜捨がある。ザカートは年間の所有財産に対して支払うもので、農産物については収穫物の10%、金銀、商品については2.5%等となっている。ザカートを与える対象者は①貧者②困窮者③ザカート管理者④イスラームへの改宗者⑤奴隷解放のため⑥負債者⑦アッラーの道のため努力する者⑧旅行者。ザカートは収入から費用を差し引いた利益の2.5%を国庫に納めるもの。貧者や生活費に困っている人を助けることは富者の義務行為であり、彼らは最期の審判を恐れ、来世での報酬を期待して、積極的に金銭を施している。財産も含めたこの世のすべてのものは、アッラーの所有物であるとの観点からも、富者は貧者に施しを与える義務があるとしている。また、サダカは自発的にする施しで、広義には金銭や物に限らず、慈善行為すべてをさす。サダカを与える対象者として、家族、扶養者、親

族、困窮者、寡婦、孤児、債務者、旅行者、布教者、援助を必要とする人がある。イスラーム社会ではサダカを通して相互扶助を実践している。

クルアーン（（主を畏れる者たちとは、幽玄界を信じ、礼拝の務めを守り、またわれが授けたものを施す者））（2章3節）。

（（施し（サダカ）は、貧者、困窮者、これ（施しの事務）を管理する者、および心が（真理に）傾いてきた者のため、また身代金や負債の救援のため、またアッラーの道のため（率先して努力する者）、また旅人のためのものである。これはアッラーの決定である））（9章60節）。

8 - イスラームの樂園と地獄とは？

回答；人間の現世での全ての行為が最後の審判でアッラーにより清算され、永遠の来世で、樂園へ行くのか、地獄で行くのか決められる。このことはムスリムにとって、最大の関心事で、そのために、アッラーの命に従いアッラー喜ばれるように、生きようとしている。その樂園と地獄について、クルアーンの中で次のように様々に描写されているが、実際の樂園、地獄は現世のわれわれには見えない世界で、その時になってみないと分からない。樂園については川が流れる樂園、佳き住まい、好きなように果実や飲み物が摂れるとか、五感に訴える描写が多くみられる。

クルアーン（（信仰して善行に勤しむ者たちには、かれらのために、川が下を流れる樂園についての吉報を伝えなさい））（2章25節）。

（（だが主を畏れる者には、川が下を流れる樂園があり、かれらは永遠にその中に住むであろう））（3章198節）。

（（アッラーは、男の信者にも女の信者にも、川が永遠に下を流れる樂園に住むことを約束された。また永遠のアドンの園の中の、立派な館をも。

だが最も偉大なものは、アッラーの御満悦である)) (9章72節)。

((かれはあなたがたの様々な罪は赦して川が木々の下を流れる楽園に入らせ、エデンの楽園における美しい邸宅に住ませる)) (61章12節)。

((主を畏れる者に約束されている楽園を描いてみよう。そこには腐ることのない水を湛える川、味の変わることのない乳の川、飲む者に快い美酒の川、純良な蜜の川がある。またそこでは、凡ての種類の果実と、主からの御許しを賜る)) (47章15節)。

((その中でかれらは安楽に寢床に寄りかかり、沢山の果実や飲み物が、望み放題である)) (38章51節)。

((本当に、主を畏れた者は、安泰な所にいる。園と泉の間に、絹や錦を纏い、互いに向かい合って、このようにわれは、輝いた大きい目の乙女たちを配偶者にするであろう)) (44章51～54節)。

一方、地獄は不信仰者や罪人が行く場所で、永遠に炎で焼かれる。クルアーンでその様子を次のように描写している。

((人間と石を燃料とする地獄の業火を恐れなさい。それは不信心者のために用意されている)) (2章24節)。

((枷がかれらの首に填められ、また鎖が巻かれ、かれらは引かれるであろう。沸騰する湯の中に、それから火獄の中に投げ込まれる)) (40章71, 72節)。

((本当にかれの地獄の炎は頭の皮まで剥ぎ取る)) (70章15～16節)。

((断じてそうではない。かれは必ず業火の中に、投げ込まれる。業火が、何であるかをあなたに理解させるものは何か。それはぼうぼうと燃えているアッラーの火、心臓を焼き尽くし、かれらの頭上に完全に覆い被さり、

逃れることのできない列柱の中に)) (104章4～9節)。

((その日あなたは、罪のある者たちが鎖で一緒に繋がれているのを見ら
であろう。かれらの下着がタールで、かれらの顔は火で覆われる)) (14
章49, 50節)。

((本当にザクームの木こそは、罪ある者の糧である。それは溶けた銅
のように内臓の中で沸騰しよう、湯気が滾りかえるように)) (44章43
～46節)。

(注) ザクームは地獄に生えている木。

9 - シーア派とスンニー派の違いとは？

回答；シーア派とスンニー派は基本的教義において大差はない。シーア
が生まれたのは預言者ムハンマドの後継者争いに起因する。ムハンマドの
死後、イスラーム共同体、ウンマの指導者として、預言者ムハンマドの後
継者を選定した。ムハンマドの従弟にあたるアリーの家系を重視する一派
は、アリーとその子孫だけをムハンマドの後継者である、と主張し、シー
ア派を形成した。

一方、スンニー派は共同体の合意により後継者を選ぶべきだと主張し
シーア派の人々との間に争いを起こした。スンニー派の後継者はカリフと
呼び、法学者たちによるイジュマーを認めるが、シーア派の後継者はイマ
ームと呼ばれ、イマームの言行を重視し、イジュマーを認めない。

ムスリムの90%以上を占めるスンニー派とは、一般的には、預言者ム
ハンマドの慣行とウンマの合意に従う人びとのことを言う。

少数派のシーア派はアリーの系統の中で誰がどのような権威をもつイ
マームであるかで、いくつかに分かれ、12イマーム派、7イマーム派、

ザイド派等がある。

10 - 豚肉が禁止されている理由は？

回答；クルアーンで豚肉は死肉、血と同様に不浄なものとして食べることを禁じている。ムスリムはアッラーの言葉であるクルアーンには無条件に従う。クルアーンでは、その禁止の理由についてあまり述べられていないが、今日、医学的見地などから、次のことが分かってきた。

- 1 - 豚肉は病原菌が繁殖しやすく、伝染病の温床になりやすい。
- 2 - 豚は平気でゴミ、汚物、腐ったものを食べる雑食動物で、餌があれば食べ続ける。そのため豚肉は不衛生で、病原菌、特に寄生虫を人体に移し、蔓延させる。
- 3 - 豚は見境なく交尾する。豚を食肉とする国で貞操感が減少し、不道徳な行為が広まっている。

((信仰する者よ、われがあなたかたに与えた良いものを食べなさい。そしてアッラーに感謝しなさい。もしあなたがたが本当にかれに仕えるのであるならば。かれがあなたがたに、食べることを禁じられるものは、死肉、血、豚肉、およびアッラー以外の名で唱えられたものである)) (クルアーン2章172～173節)。

((あなたがたに禁じられたものは、死肉、流れる血、豚肉、アッラー以外の名を唱え殺されたもの、角でつき殺されたもの、野獣が食い残したもの、ただしこの種のものでもあなたがたがその止めを刺したものは別である。また石壇に犠牲とされたもの、くじで分配されたものである)) (クルアーン5章3節)。

1 1 - 飲酒が禁止されている理由は？

回答；クルアーンで飲酒を禁じている。その理由について、専門家の間では、次のことが言われている。

- 1 - 飲酒により、健康を害する。特に習慣的に飲酒するとアルコール中毒になる。
- 2 - 飲酒により平常心を失い暴力をふるう等、他人に迷惑をかけることが多くなる。
- 3 - 経済的負担になる。

飲酒が横行していた当時のアラビア半島は社会がひどく乱れていた。クルアーンで飲酒が一度に禁止されたわけではなく、次のように徐々に禁酒を厳しくして行った。

- 1) ((またナツメヤシや葡萄を実らせて、あなたがたはそれから酔うものと良い食料を得る)) (クルアーン 16章 67節)。
- 2) ((かれらは酒と賭矢についてあなたに問うであろう。言ってやるがいい。それらは大きな罪であるが、人間のために多少の益もある。だがその罪は益より大である)) (クルアーン 2章 219節)。
- 3) ((信仰する者よ、あなたがたが酔った時は、自分の言うことが理解できるようになるまで、礼拝に近づいてはならない)) (クルアーン 4章 43節)。
- 4) ((あなたがた信仰する者よ、誠に酒と賭矢、偶像と占い矢、忌み嫌われる悪魔の業である。これを避けなさい。恐らくあなたがたは成功するであろう)) (クルアーン 5章 90～91節)。

1 2 - 女性の地位と立場は？

回答；男女は人間としてまったく平等であり、同等の権利をもつ。しかしこのことは男女の特性を生かした平等と権利で、すべてにおいて同じに扱うということではない。女性は人類存続のための母として子を生み、育てる重要な役割がある。すべての女性は母となりうるから、凡ての男性に尊敬され、大切にされなければならない。男性の主な役割は家族を養うために、働いて収入を得ることである。女性はそれを家族のために使えばよい。そのことは女性の社会進出をはばむものではなく、社会の発展のために女性の労働力は欠かせない。しかし子育ては母親以上にかわりうるものはいないから、どんな仕事より優先すべきである。育児に関する父親の役割は、母のそれと比較にならない。体内に重荷を抱き、陣痛の苦しみに喘ぎ、日夜神経をすり減らす程子育てに必死となり、自己のすべてを投入して子を盲愛する。この盲愛こそ本能であり、それは子を人間として存在感を与える栄養である。父親は母親の盲愛や溺愛を修正し、子供にとって家庭から社会への架け橋となる役割を果たす。

クルアーン（（男は女の擁護者である。それはアッラーが、一方を他よりも強くなされ、かれらが自分の財産から扶養するため、経費を出すためである））（4章34節）。

（（女は公平な状態の下に、かれらに対して対等の権利をもつ。だが男は女よりも一段上である））（2章228節）。

1 3 - 女性の服装は？

回答；社会の単位を家庭とするイスラームは、健全な家庭を築くため、配偶者以外の性的交渉を許さない。この大前提にたって、男女の服装に関

する教えがある。アッラーは男性を強く、女性を美しく作られた。女性の姿形は性的魅力にあふれているから男性同様の服を着るわけにはいかない。

((預言者よ、妻や娘たちや信者の女性に長衣をまとうようにいえ。女たちの立場が知られ、傷つけられないように)) (33章59節)。

保守派は顔を含めた全身を隠す意味に解釈する。だが長衣がなぜ顔まで隠すのか、この節では判断できない。

((外にあらわれるもの以外は女性の美や飾りを見せてはならない。それからベールをその胸の上に垂れなさい)) (クルアーン24章31節)。

保守派は通常外にあらわれるのは目と、手首から先と、足のくるぶしより下だけだと言う。大多数は顔と手だとしている。「そとにあらわれるのは、ここここである」とされ、預言者がどこを示したのか学者間の議論的となっている。学者間の中で意見が分かれる場合は、信者はどの学説に従っても良いと自由を与えている。

14 - 家庭と結婚について？

回答；家族、家庭を社会の基本単位とし、健全な家庭が健全な社会を形成するとしている。その社会の基本となる家庭を作るために、また不道徳な道に走らないためにも、健全な身体と経済的余裕がある者には、早く結婚するように勧めている。そして、夫婦は助け合い健全な家庭を築くように努力すべきとしている。

ハディース：

アナスが伝えた。「人は結婚によって宗教の半分を成就できる。それで残りの半分はアッラーを畏怖するようにせよ」(バイハキー)。

アブドッラーが伝えた。「若者たちよ、あなた達の中で妻を養える者は結婚しなさい。そうすれば、あなた達の目がよくない方にむくのが制され、不道義に走ることもなくなります」(ムスリム)。

15 - 人間の死について？

回答：人間は他の動物と同じで、生まれてきたら亡くなる運命にある。イスラームではこの宇宙のすべてのものが、アッラーの被造物であり、人間の運命もアッラーにより定められている。そしてその被造物の一つひとつに個性、特性、尊厳を与え、人間には人権も与えた。生死についてもアッラーの手中にあり、人間が自分で死を選択することは赦されない、犯罪行為でもある。また、人間に人生における規範と知恵と自由を与えたが、人生を全うし死を迎えると、恐ろしい審判が待っている。永遠の来世の居場所は現世の生き方によって左右されるから、ムスリムはアッラーの命に従い、必死に生きようと努力する。従って、イスラームでは、死は普通のことであり、恐れるものではないが、永遠の世界への通過点であり、永遠の自分の居場所を決定する重要な意味を持つてくる。

クルアーン ((誰でも死を味わうのである。だが復活の日には、あなたがたは十分に報いられよう。(またこの日) 業火から遠ざけられた者は、楽園にいれられ、確実に本望を成就する)) (3章185節)。

((人はすべて死を味わう。われは試練のために、凶事と吉事であなたがたを試みる。そして(最後は)われに帰されるのである)) (クルアーン21章35節)。

((本当にわたしたちは、アッラーのもの。かれの御許にわたしたちは帰ります)) (クルアーン2章156節)。

16 - 一夫多妻をなぜ認めるのか？

回答；人権を重視するイスラームでは男女は平等の権利を持つ。そして、両者は助け合い、健全な家庭を作ることを重視する。一夫一妻が理想であるが、男女の人数が不均衡になったり、単独では生活が困難になったりした場合は特別な救済措置が必要である。今までの歴史の中でも、夫が戦争や死去した場合には、残された寡婦や子供たちは路頭に迷ってしまうが多かった。そのような場合は、余裕のある男性が女性を救済する制度である。ただし、妻たちを平等にしなければならないという条件がある。特に経済的に、また過ごす時間を平等にしなければならないと、男性にとっては大きな負担となるので、現在では複数の妻を持つ人は少ない。また、妻に病身であったり、子供が出来なかったりした場合、妻の同意を得て別な女性とも結婚する人が多い。

クルアーン（（あなた方がもし孤児に対し、公平にしてやれそうにもないならば、あなたがたがよいと思う2人、3人または4人の女を娶れ。だが公平にしてやれそうもないならば、ただ1人だけにせよ））（クルアーン4章3節）。

17 - イスラーム諸国で多発する殺戮や自爆テロは許されるのか？

回答；イスラームでは人命を何よりも重要視する。アッラーの被造物である人間の命はアッラーのものである。自分自身の命を殺したり、他人の命を殺したりすることはアッラーへの挑戦となり、大きな罪となる。したがって、戦争、殺戮、自爆テロは許されず、大罪となる。ただ自己防衛は一定の条件を満たし許される。イスラーム諸国で多発しているのは、国内

外の政治的要因によるものである。

クルアーン（（人を殺した者、地上で悪を働いたという理由もなく人を殺す者は、全人類を殺したと同じである））（５章３２節）。

18－ハラール食品の必要性とは？

回答；ハラールとは「合法的なもの」とか「許されたもの」を意味するアラビア語である。この対語として、「不法なもの」とか「禁じられたもの」を意味するハラームがある。

ハラール食品について；

ハラールな食品についてクルアーンで次のように述べている。

（（それでアッラーがあなたがたに授けられた、合法にして善いものを食べなさい））（１６章１１４節）。

このクルアーンの中で、ハラールな食べ物についてハラールン タイエバン（合法的で善い物）と表現されている。タイエブとは清潔、清浄、健康的、環境保全の上で善きという意味になる。従って、ムスリムは食べ物に関して敏感にならざるを得ない。

またハラールではない禁じられた食べ物についてつぎのように述べている。

（（あなたがたに禁じられたものは、死肉、（流れる）血、豚肉、アッラー以外の名を唱え（殺され）たもの、絞め殺されたもの、墜死したもの、角で突き殺されたもの、野獣が食い残したもの、（ただしこの種のものでも）あなたがたが止めを刺したものは別である））（５章３節）。

死肉とは、イスラーム法的に屠畜されなかった動物肉をも含める。血とは、動物から流れる血で、屠畜後に体内に残った血ではない。豚肉は、不

浄とされ、豚の体内から抽出したもの、脂肪や皮や毛など全てを含む。また、豚および豚由来のものに触れたものも不浄とされる。

また酒（ハムルと呼ぶ）も禁止されている。

（（あなたがた信仰する者よ、誠に酒と賭け矢、偶像と占い矢は、忌み嫌われる悪魔の業である。これを避けなさい。おそらくあなたがたは成功するであろう））（2章50節）。

19－ハラール認証の必要性とは？

ムスリムはシャリーア（イスラーム法）に適った生活をするにより、現世で成功し、来世でアッラーから多大な報酬が得られると信じている。従って、ムスリムにとって、日々口にする食べ物がハラールであるかどうかは大変重要なことになる。単なる食の安全だけではなく、アッラーに対する信仰体现の一部となっている。このため各国のハラール認証団体はムスリム消費者を安心させ、彼らの信仰体现の手助けの役割を担っている。

日本ムスリム協会も認証団体の一つである。同協会のハラール証明書は、原則として、日本の企業がイスラーム諸国向けに製品を販売したい時に、ハラール性を見てほしいと頼まれた時にのみイスラーム法に照らし合わせ、厳しい査察・検査を行った結果、発行するものである。

尚、ハラール性に関する判定は、科学委員会による科学的精査結果に基づき、イスラーム諸国でイスラーム学、シャリーア学を専門に習得し *ijazat al-aliyah* 資格を有するムスリム（複数）によるシャリーア委員会が行っている。

20－イスラーム金融とは？

回答；イスラームでは、利子は禁止されているが、利益は認められている。利率を事前に定めることなく、事業から利益が得られてはじめて出資者にそれを還元するものである。株式や投資信託に類似する。その形態として次のものがある。

- 1) ムダーラバ；出資者が事業家に資本を全額投資するパートナーシップ契約。事業家は事業からの利益で出資者に配当と元本返済をする。
- 2) ムラーハバ；ある財を購入した際の原価よりも高い代金によって転売する形態の売買で、購入者が原価と代金の差額を了解し差額を転売者の売却益として納得した上で契約が結ばれる。
- 3) ムシャーラカ；資本出資者と労働提供事業家が、共同出資により事業の共同経営を行い、生じた利益を契約時に決めた比率によって分配し、また損失が生じた場合も出資比率に応じる契約
- 4) イジャラ・ワ・イクティナー；顧客に賃貸して使用料を取るまではイジャラ（リース）と同じであるが、顧客は銀行に口座を開設して積み立てる、いわばリース購入である。この積立額が購入代金プラス手数料になったところで当該物件の所有権が顧客に移る。

21－イスラームの結婚、離婚とは？

回答；イスラームの結婚は（法的には男性が女性を独占する契約をすること）男性と女性の契約による。一般的には結婚する女性の後見人が男性に申し込みをし、男性が承諾し、成立する。結婚生活においては両者に権利と義務がある。夫には妻子を養育する義務があり、妻には家庭内の運営に責任を持つ義務がある。

妻は夫に対して、衣料・食物を支給されたり、暴力・暴言・悪口を受けない等の権利がある。

離婚は結婚契約を特別な言葉で宣言して破棄すること。離婚の形態は夫が一方的に宣言する場合、妻が死亡した場合、妻が要求した場合、両者が要求した場合がある。

2.2-四学派とは？

クルアーンやハディースの解釈をめぐって命令行為や禁止行為がどのように適用されるかについて、法学者の意見の不一致から四学派が生まれ、シャリーアという法体系を確立して行った。

ハナフィー派；アブー・ハニーファ（679－767）キヤースを尊重。

中央アジア、西アジア、パキスタン、インド、下エジプト。

マーリキ派；マーリク・ビン・アナス（715－795）スンナを尊重。

上エジプト、北アフリカ、アラビア湾、中央・西アフリカ。

シャーフィイー派；アッサーフィイー（767－820）法学の基礎を四つに置く学派。シリア、エジプト、東アフリカ、アラビア湾、西アラビア、南アラビア、インド、東南アジア。

ハンバリー派；アハマド・ビン・ハンバル（780－855）スンナを尊重。バクダード、中央アジア、シリア、パレスチナ、サウディアラビア。